

はじめに

平成14年4月から施行された現教育課程も3年目を終えようとしています。現教育課程については、「学力」と「ゆとり」を二項軸とした論争もあり、その成果の検証が求められるところです。

そのような中、本調査研究では、「子どもの生活と学習に関する意識調査」と題し、現教育課程のもと、子どもの生活や学習に関する意識がどう変わったのかということ、「子どもの生活に関する自己認知」、「子どもの学習に関する自己認知」、「学習に対する意識」を柱にアンケートを構成し実施しました。本研究所では、前教育課程下の平成10(1998)年に『『子どもの生活』に関する調査』、平成12(2000)年に「学習についての調査」を実施していますが、それらの結果と比較考察することで、児童・生徒理解をさらに深め、今後の教育活動に生かすことができる資料作成をねらいとしています。

アンケートの中の「パソコンや携帯電話でインターネットやメールをする時間は、一日でどれくらいですか」という設問に対して、「しない」とする回答が、小4で7割・小6で5割・中2で2割と学年があがるにしたがって減少する一方、している時間は、学年があがるにしたがって増加し、中2では、全体の2割以上の子どもが「3時間以上している」と自己認知しています。このことは、子どもたちへの情報ツールの浸透が予想以上の速さで進んでいることの証左であり、小学校段階からの情報モラルの系統的な指導の必要性を確認する結果となりました。

今回実施した調査は、項目や分析方法等においてまだまだ不十分な点がありますが、この調査結果が日々の教育活動に役立つことを期待しております。

終わりにになりましたが、調査研究のために熱心にご指導を賜りました大阪大学大学院人間科学研究科教授の近藤博之先生をはじめ、一年間にわたって活動された調査研究所員の先生方に深く感謝いたします。また、本調査にご協力いただきました関係各学校長ならびに諸先生方に厚くお礼申し上げます。

平成17(2005)年3月

茨木市教育研究所
所長 堺 陽子

目 次

I. 調査研究の概要と構成	
1. 調査研究の目的	
2. 調査の構成と内容	1
3. 調査の実施	1
(1) 調査の対象	1
(2) 標本とその性格	1
(3) 調査の方法	1
(4) 調査の実施時期	1
II. 調査結果の概要	
1. 子どもの生活について	
(1) 朝食を食べましたか	3
(2) 何時に寝ましたか	4
(3) 1日どれくらいテレビを見ますか	5
(4) 1日どれくらいコンピューターゲームをしますか	6
(5) 1日どれくらいインターネットやメールをしますか	7
(6) 1日どれくらい家で勉強しますか	8
(7) 家庭における時間の使い方にどんな関係性があるのか	9
(8) 宿題はどの程度やりますか	11
(9) 休日の過ごし方について	12
(10) 身の回りのことは自分でしますか	13
(11) 親子でよく話をしますか	17
(12) 1ヶ月に何冊くらい本を読みますか	18
(13) 大人になったらつきたい仕事がありますか	19
2. 子どもの学習について	
(1) 学校は楽しいですか	21
(2) どんな時に学校を休みたいです	22
(3) 好きな勉強・嫌いな勉強は何ですか	23
(4) 前の学年で習った算数・数学はどれくらいわかりますか	24
(5) わからない時どうしますか	25
(6) 努力すれば、成績は上がると思いますか	26
(7) 苦手な教科を努力していますか	27
(8) 努力期待と努力実行の関係性について	28
(9) どんな勉強のしかたが好きですか	29
(10) 勉強していて、どんな時にうれしいですか	30
(11) どんな力を身につけていきたいですか	31
III. まとめにかえて	32
IV. 調査資料	
1. 調査用紙	35
2. データ(集計結果)	37
3. 比較データ(平成10年度・平成12年度)	41

I 調査研究の概要と構成

1. 調査研究の目的

市立小学校、中学校の児童生徒の学校や家庭における実態及びその意識を調査して、今後の教育施策や実践に生かせる基礎的な資料を作成する。特に、平成14年度からの学校週5日制の下、現行の学習指導要領の実施が、児童生徒の学習や生活に与えた影響について調査研究する。また、調査結果を市立学校園や関係機関等に情報提供することで、授業改善や生徒指導、家庭教育等を進める上で参考に資するものとする。

2. 調査の構成と内容

本調査は、「子どもの生活と学習についての意識調査」をテーマに設問を構成した。主として次の3つの柱から成り立っている。

1. 生活習慣についての自己認知
2. 学習実態についての自己認知
3. 学習に対する意識

なお、設問については、比較考察を行う目的で、7割程度『『子どもの生活』に関する調査』（研究紀要第155号、1999）並びに「学習についての調査」（研究紀要第166号、2001）と同一のものを使用した。

3. 調査の実施

(1) 調査の対象

小・中学校	学年	校数	児童・生徒数	人数計
小学校	4年	6校	583	1,653
	6年	6校	549	
中学校	2年	4校	521	

(2) 標本とその性格

茨木市内の小・中学校の中から、地域の偏りを少なくするよう考慮した上で学校を抽出し、各学年全クラスで実施した。

(3) 調査の方法

- ①各教室において、質問紙による集合調査を行った。
- ②各設問の該当する選択肢を、番号で回答するようにした。
- ③回収については、各学校でまとめ、教育研究所に送付する方法をとった。

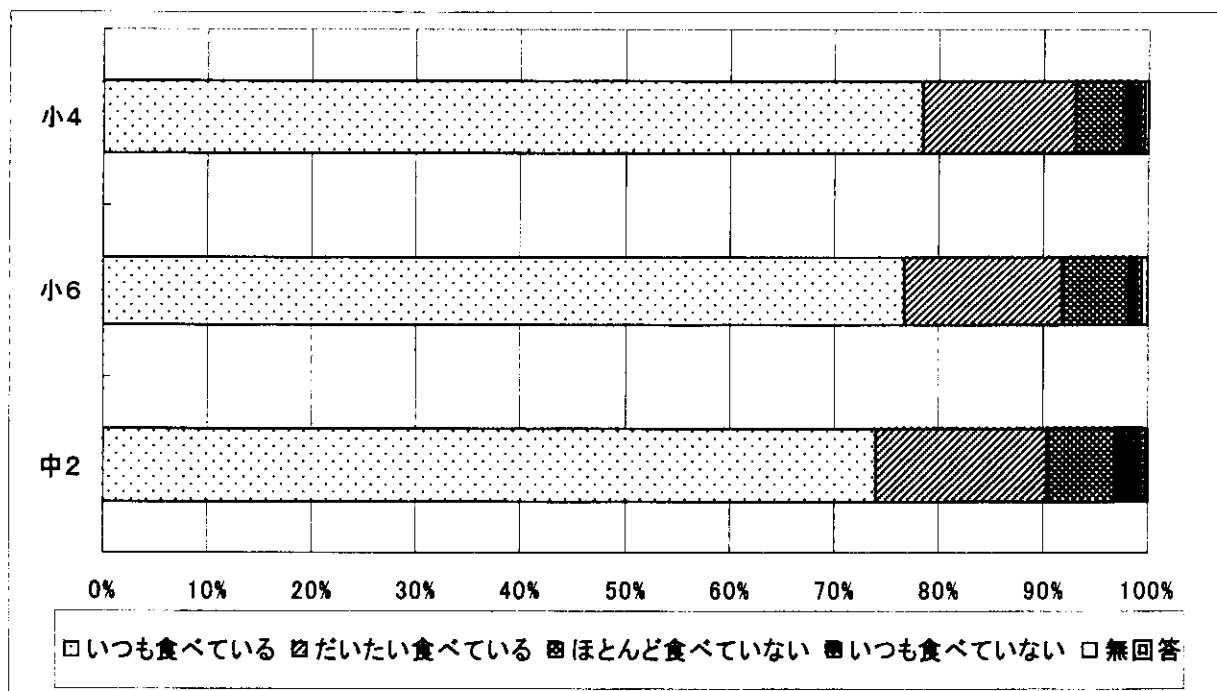
(4) 調査の実施時期

- ① 各学校への調査用紙の配布・・・平成16年6月23日（水）
- ② 教育研究所への提出期限・・・平成16年7月16日（金）

II. 調査結果の概要

1. 子どもの生活について

1-(1) 朝食を食べましたか。【設問1】



【考察】

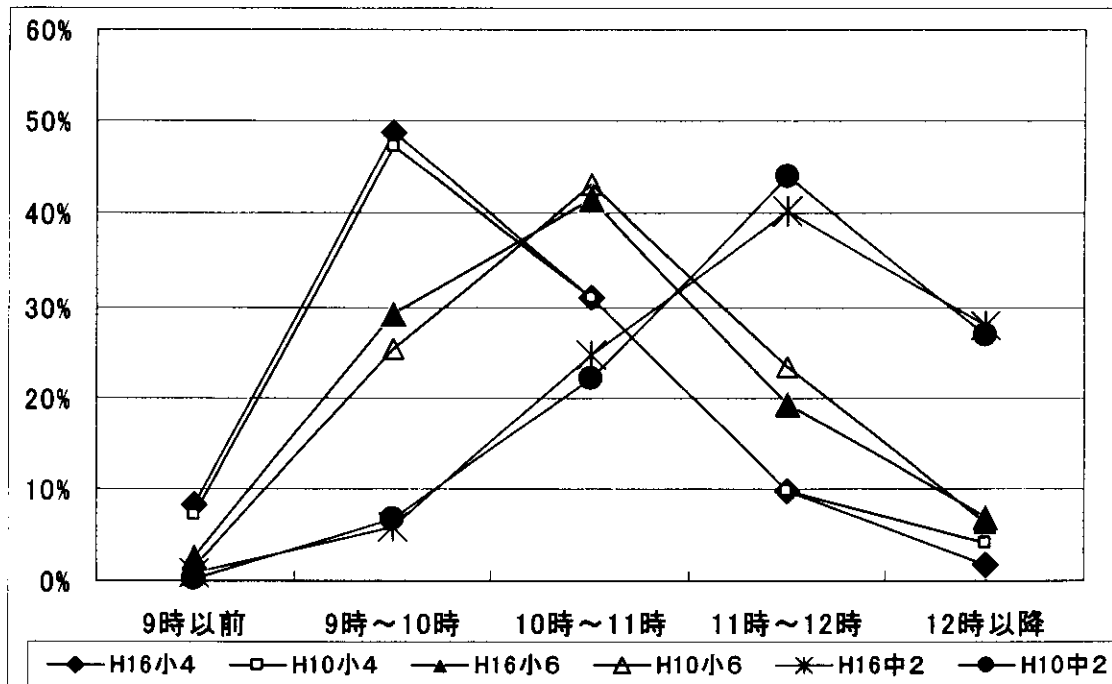
「いつも食べている」と答えた児童・生徒は70%をこえている。

「いつも食べている」「だいたい食べている」を合わせると90%をこえているが、朝食は1日の始まりでとても大切だといわれているのに約3割の児童・生徒が毎日食べていない。

「ほとんど食べていない」「いつも食べていない」を合わせてみて見ると小4では女5.6%・男7.5%、小6では女10.7%・男4.2%、中2では女10.3%・男8.5%となっている。小6の男女差が大きい。

食べる時間がないのか、食欲がないのか、ダイエットをしていて食べていないのか、いくつかの理由が考えられる。またこの設問で「朝食を食べている」と答えている子と「朝食を食べていない」と答えた子どもたちの睡眠時間はどう関連しているのだろうか。睡眠時間との関連についても気になるところである。(男女別資料37頁参照)

1-(2) 何時に寝ましたか。〔設問2〕



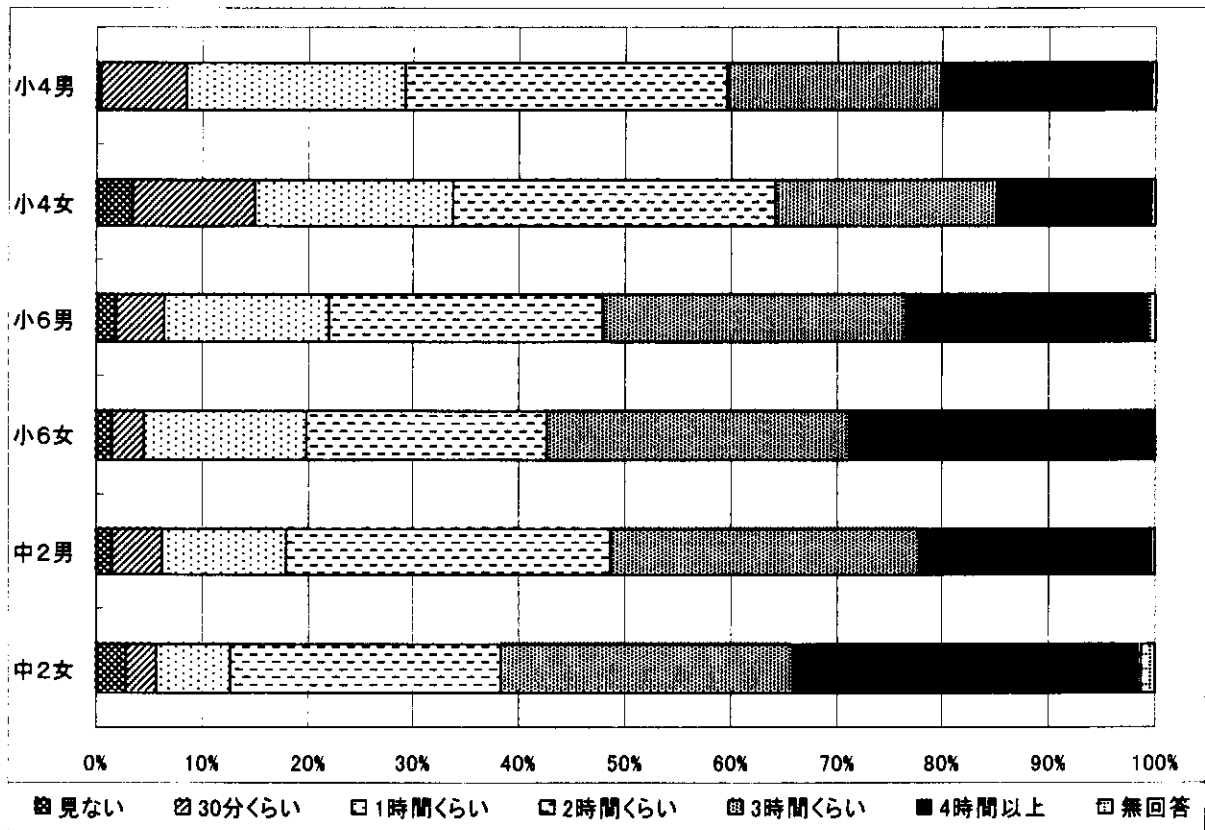
【考察】

一番多い時間帯は、小4では「9時～10時」・小6では「10時～11時」中2では「11時～12時」となっている。「12時以降」に寝ている中学生は28%(男子は24%で、女子は32.9%)となっている。グラフが示すように平成10年度と比べて大きな差はない。

学年が上がるにしたがって就寝時刻は遅くなっているだろうと予想していたが、11時以降に寝ている中学生は男64.2%、女73.6%となっている。これは割合として高いのではないだろうか。また、体や脳を休ませるのに十分な睡眠時間が必要だといわれているが、家庭の生活リズムの見直しや時間の使い方など工夫が必要ではないだろうか。また、この就寝時刻の結果はテレビの視聴時間・ゲームなどとも関係があるのではないだろうか。

(比較ページ9-10頁, 男女別資料37頁参照)

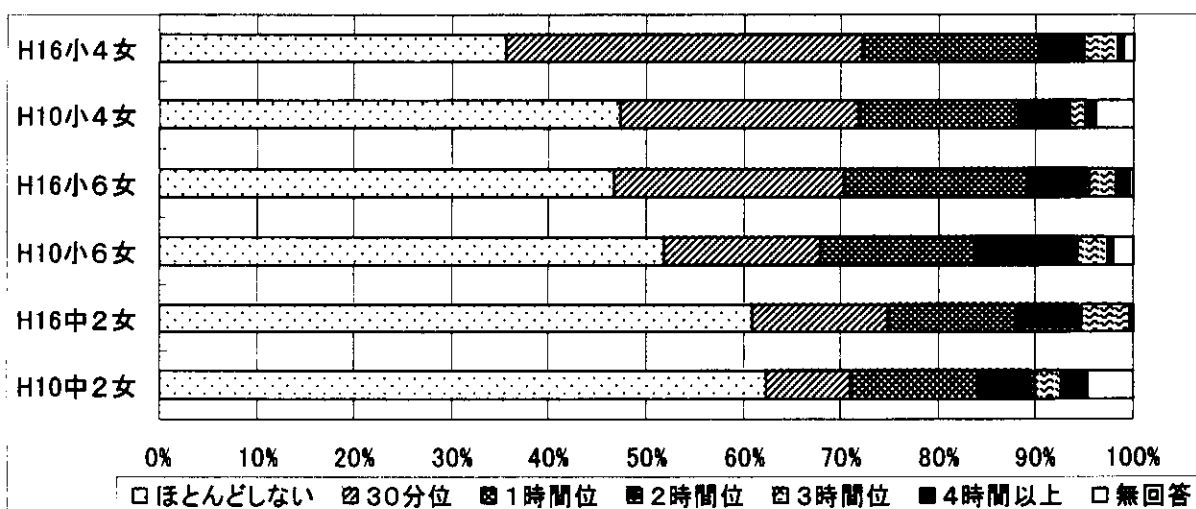
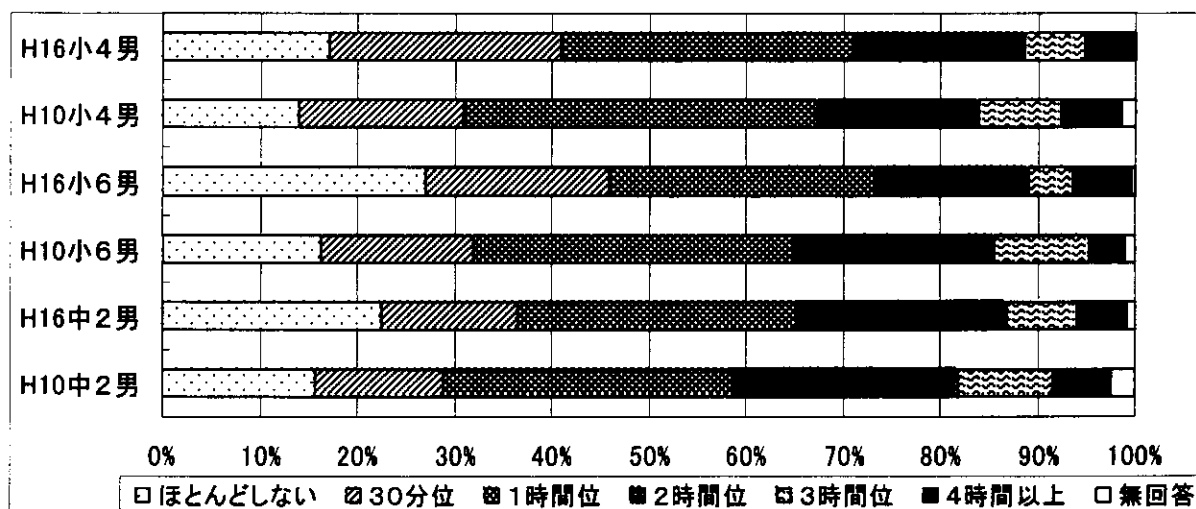
1-(3) 1日どれくらいテレビをみますか。〔設問3〕



【考察】

テレビを見ないと答えた子どもたちは1.6%~2.1%で、ほとんどの子どもたちがテレビを見ている。それぞれの学年で一番多い視聴時間は、小4では男女共「2時間くらい」、小6では男が「3時間くらい」女が「4時間以上」、中2では男が「2時間くらい」女が「4時間以上」となっている。小6・中2では男より女の方が長い時間テレビを見ている。中2女の「4時間以上」32.9%（男21.8%）は少し多いような気がする。学年があがるにしたがって視聴時間が増えてきているが、中学生になると男女差は大きい。（男女別資料37頁参照）

1-(4) 1日どれくらいコンピューターゲームをしますか。【設問4】



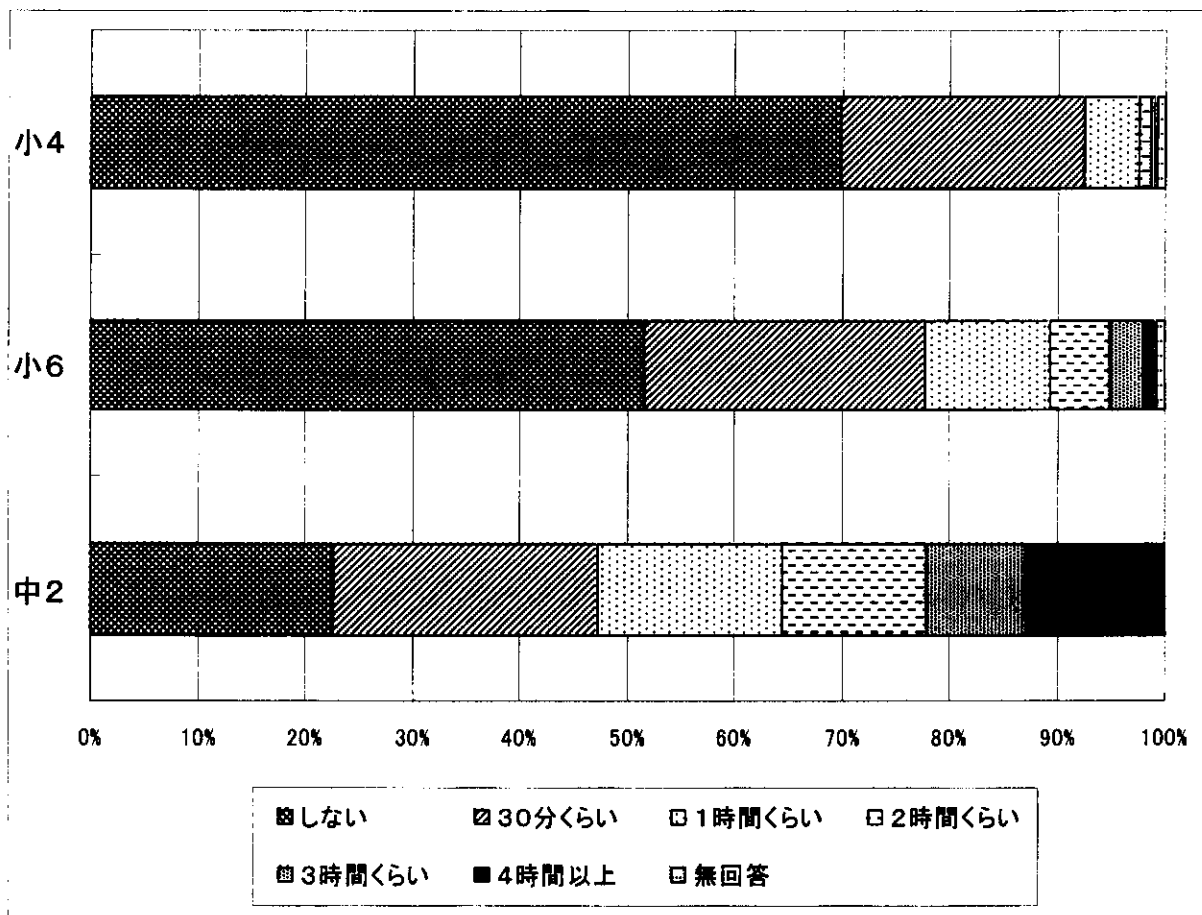
【考察】

今回（平成16年度）の結果では、ゲームを「する」と答えた小4男は82.9%、女は63.4%、小6男は72.6%、女は53.0%、中2男は76.8%、女は39.1%になっている。ゲームをする時間は、男子では「1時間くらい」が多く、女子では「30分くらい」が多い。

平成10年度と比べてみると、「しない」と答えた児童・生徒の割合が男子では増え、女子では減っている。「30分くらい」は男女共ポイントが上がっているが、それ以上の時間となると男子ではポイントが下がり、女子では逆にポイントが上がっている。この間に、男子はコンピューターゲームを離れ、女子ではコンピューターゲームになじむ児童・生徒が増えたという動きがあったようだ。

この項目では、男女の差が大きく表れている。

1-(5) 1日どれくらいインターネットやメールをしますか 【設問5】

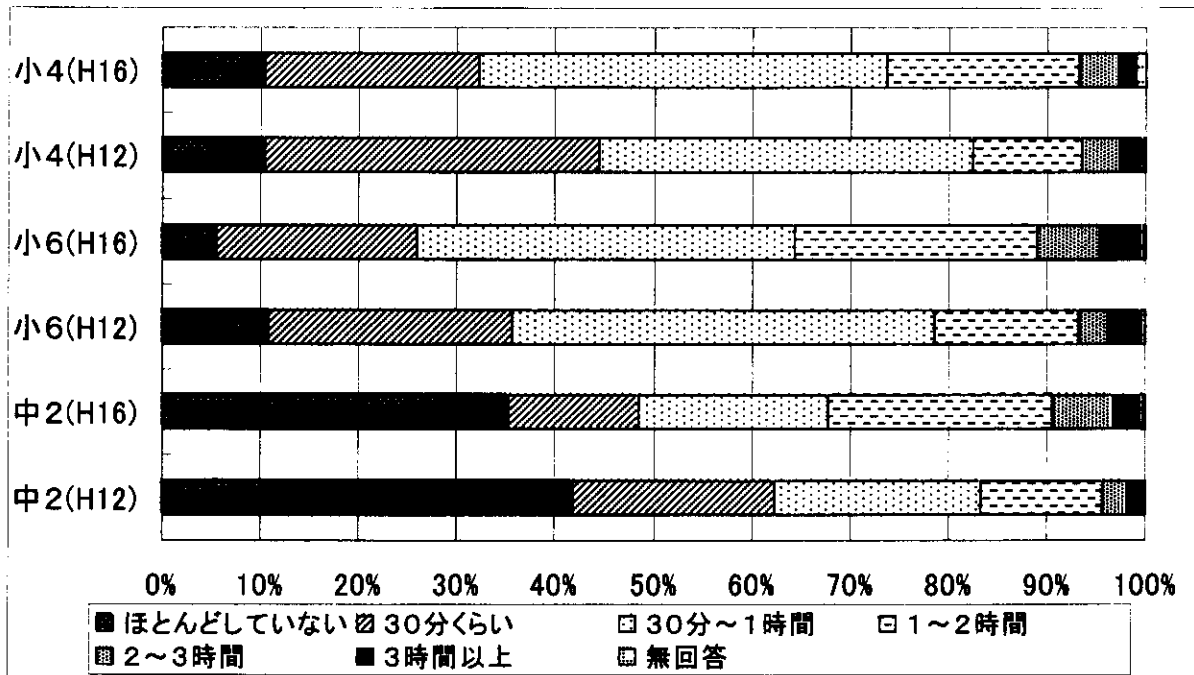


【考察】

インターネットやメールをしないという割合は、小学生で50%を越えているが、中学生ではその割合はかなり下がる。中2になると、していない生徒が22.6%であり、ほぼ8割の生徒はインターネットやメールをしている。

「している」時間が30分というものが、全体をみても最も多く、どの学年もほぼ同じ割合である(22.6%~26.2%)。つぎに多いのは1時間くらいであるが、小4、小6の児童では1時間をこえてインターネットやメールをしている割合は少ない。これに対して中2の生徒では、1時間くらいが17.3%、2時間くらいが13.4%、3時間くらいが9.2%、4時間以上している生徒も12.7%と、全体で5割以上の生徒が1時間以上インターネットやメールをしている。中2の生徒で4時間以上が、12.7%もいるというのは注目すべき結果であると考えられる。(ほとんどが、携帯電話によるメール交換と推測される。)

1-(6) 1日どれくらい家で勉強しますか。〔設問11〕



【考察】

小学生では、「30分~1時間」がもっとも多く、「30分くらい」を合わせると、6割前後となる。「ほとんどしていない」は、小4で10.3%、小6で5.6%と少ない。

他方、中学生では「ほとんどしていない」がもっとも多く、35.3%を占めている。1時間未満の者と1時間以上の者もそれぞれ3割前後となるので、中学生の学習時間には生徒によって大きな開きのあることが分かる。通塾の時間も考慮する必要があるが、「ほとんどしていない」生徒が35.3%もいることは問題と言えるだろう。

平成12年度の調査結果と比較すると、「ほとんどしていない」「30分くらい」が減り、「1~2時間」が増えている。回答に表れた家での勉強時間は、どの学年でも増えていることがわかる。

1-(7) 家庭における時間の使い方にはどんな関係性があるのか

下の3つの表は、ここまでに考察を行った家庭における生活習慣のそれぞれの関係性を学年毎に検討したものだ。各々の変数には、対応する設問の選択肢の番号をそのまま値として与えている。時間に関する変数ということから、それぞれの大小関係をもとに相関係数を求めてみる。なお、不明・無回答(0)のケースは分析から除いている。

ピアソンの相関係数 (小4全体)

	テレビ	ゲーム	メール	学習時間	朝食摂取
寝る時間	0.222	0.222	0.135	-0.052	0.281
テレビ	1.000	0.222	0.041	-0.084	0.133
ゲーム		1.000	0.170	-0.134	0.113
メール			1.000	0.093	0.110
学習時間				1.000	-0.060

ピアソンの相関係数 (小6全体)

	テレビ	ゲーム	メール	学習時間	朝食摂取
寝る時間	0.201	0.070	0.200	0.106	0.304
テレビ	1.000	0.213	0.141	-0.163	0.115
ゲーム		1.000	0.264	-0.151	-0.019
メール			1.000	-0.001	0.125
学習時間				1.000	0.049

ピアソンの相関係数 (中2全体)

	テレビ	ゲーム	メール	学習時間	朝食摂取
寝る時間	0.127	-0.056	0.200	-0.005	0.233
テレビ	1.000	0.154	0.200	-0.250	0.097
ゲーム		1.000	-0.062	0.066	0.033
メール			1.000	0.267	0.190
学習時間				1.000	-0.063

ここでは、相関係数の値が比較的大きいものに注目して結果を考察する（絶対値0.20以上を目安とし、表のセルに網掛けをしている）。

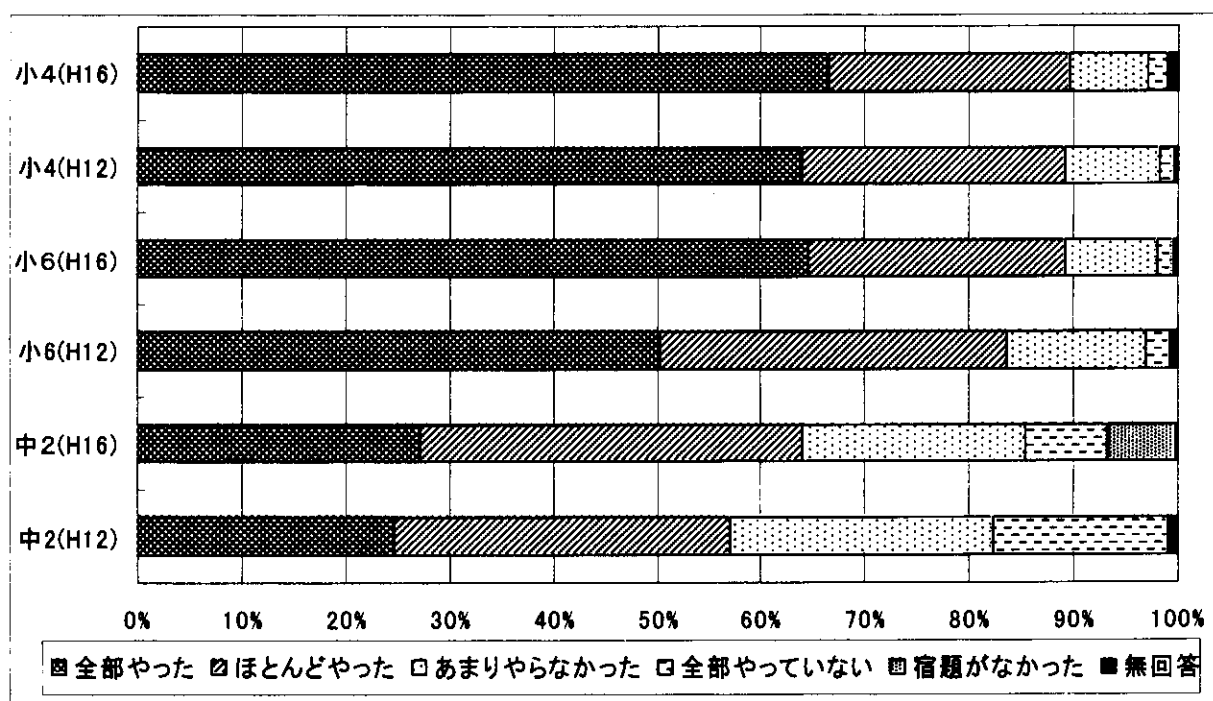
まず、どの学年についても「寝る時間」と「朝食摂取」に弱い相関関係を確認することができる。朝食がとれない原因の1つは、明らかに就寝時刻が遅く、寝不足であるためだ。

つぎに、「寝る時間」に関係するのは「テレビ」視聴時間と、小4では「ゲーム」、小6と中2では「メール」などだ。「テレビ」、「ゲーム」、「メール」に使う時間は互いに関係があり、どれかの時間が多いとだいたい他のものも多くなる傾向があるようだ。ただし、中2では「ゲーム」と「メール」が背反しており、メールやインターネットに接する時間の多い生徒はゲームをあまりしなくなるようだ。

さらに、「テレビ」、「ゲーム」、「メール」と「学習時間」の関係はほとんどがマイナスとなっている。小学生ではそれほど強い関係ではないが、中学生ではマイナス関係が目立っている。「テレビ」や「メール」に没頭する人ほど「学習時間」が少なくなるということだ。小6では、「寝る時間」の遅い人ほど「学習時間」も多いという関係があるが、中2ではそうした関係はない。「メール」などの勉強以外のことで「寝る時間」が遅くなるようだ。

これらのことから、学校が保護者に対し行う子どもの家庭生活リズムに関するアドバイス項目としては、高学年以降、特に中学生においては、インターネットやメールに接する時間等について注意喚起していく必要性があると思う。

1-(8) 宿題はどの程度やりますか〔設問10〕



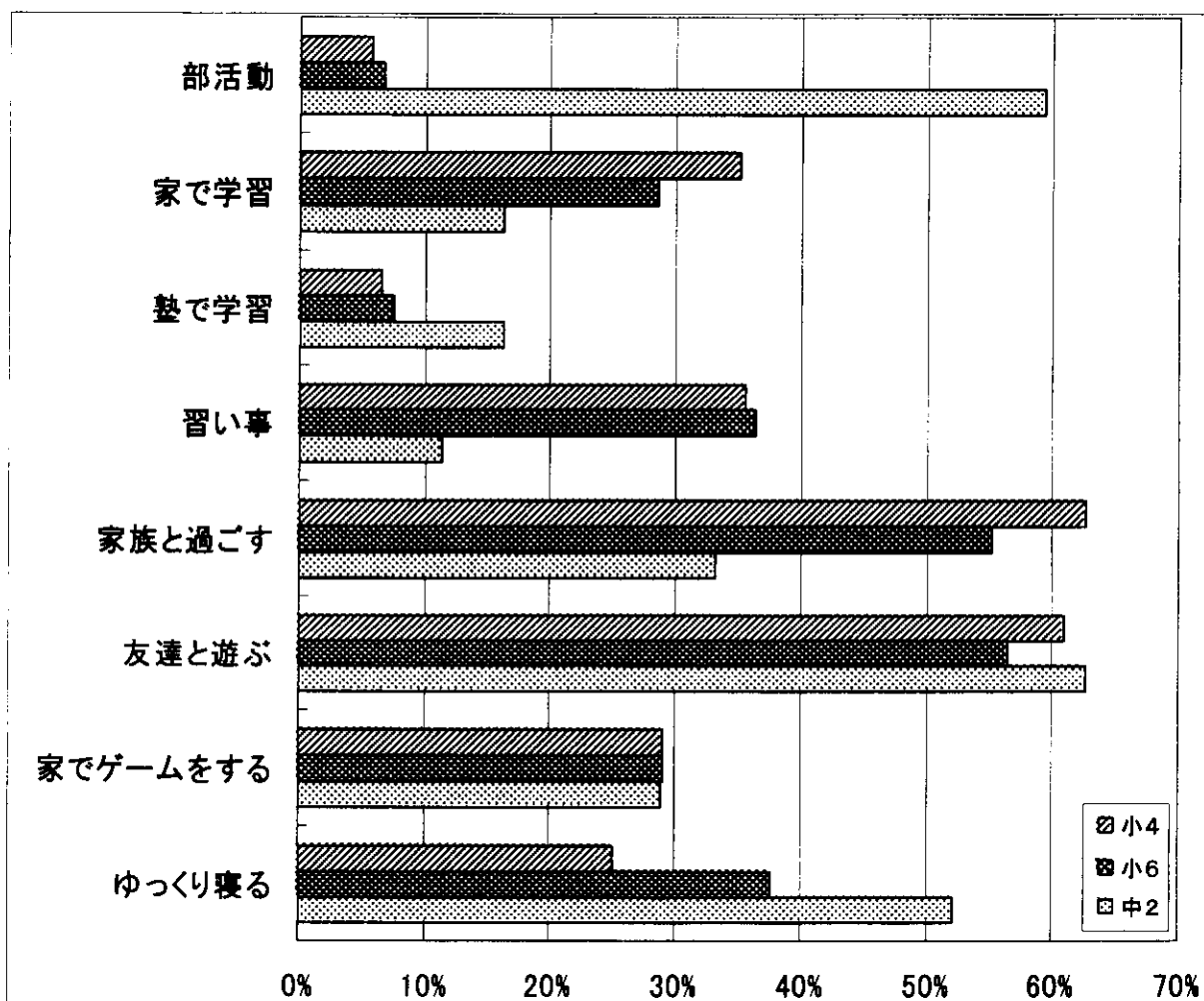
【考察】

小学生では、「全部やった」「ほとんどやった」を合わせると90%近くになるが、中学生では、65%程度である。この結果を、平成12年度調査と比較すると、小4は変わらない結果となっている。小6と中2では、宿題をやっている子どもはやや増えている。特に小6では、「全部やった」とする児童の割合が、平成12年度には50%であったのに対し、今回は65%と目立って増えている。

「全部やっていない」と回答した割合は、小学生は前回調査と同様の2%程度だが、中学生は、前回は16.7%に対して、今回は7.9%と半減している。その分、「宿題がなかった」が増えている。

全体として、平成12年度より、宿題をやる子どもは増えていると言える。

1-(9) 休日の過ごし方について [設問6]



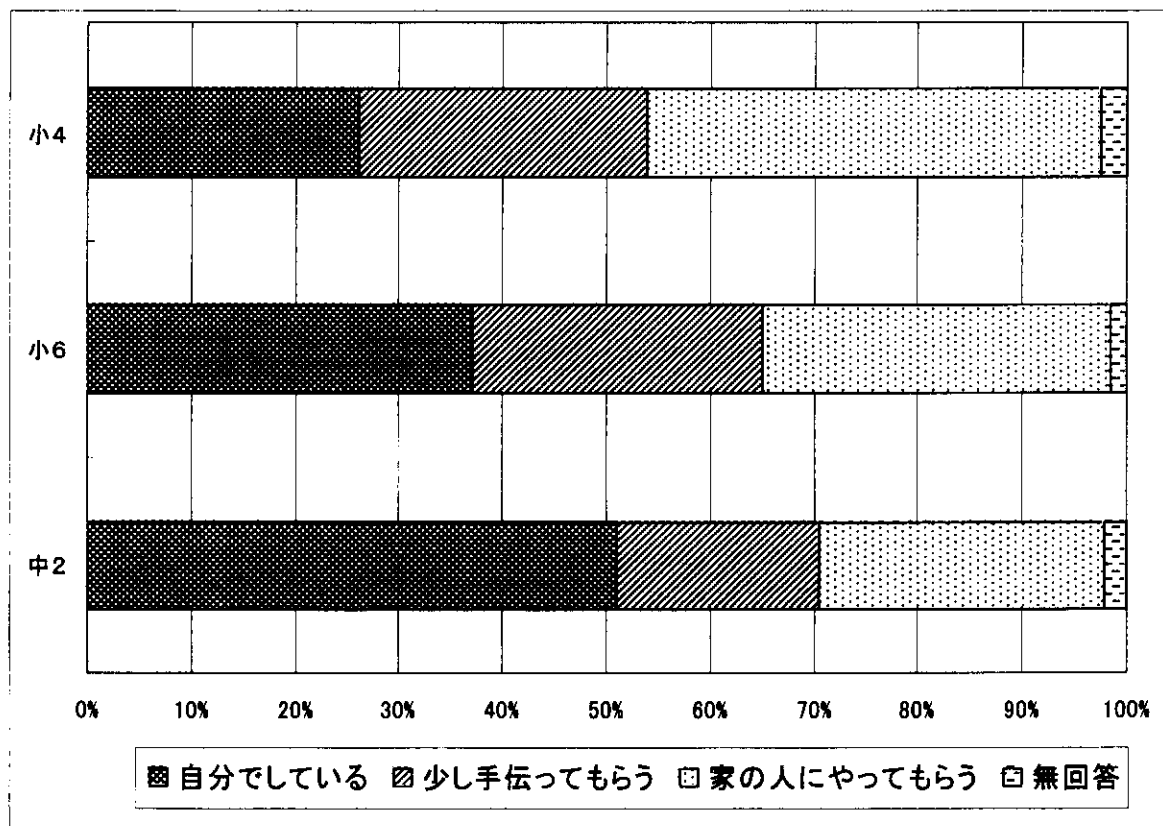
【考察】

全体的には、「友達と遊ぶ」「家族と過ごす」が多い。全体の平均をとると、それぞれ、60.0%、50.9%と5割以上の回答率である。ただし、「家族と過ごす」では、中2の生徒の回答率は33.2%で、他の小4(62.6%)小6(55.2%)に比べて低いポイントを示している。中2になると、「家族と過ごす」よりも「部活動(59.3%)」「ゆっくり寝る(52.2%)」といった休日の過ごし方が多くなっていく。

「習い事」は、小4で35.5%、小6で36.4%と、小学生では同じくらいの割合である。しかし、中2になれば、11.3%と割合が下がる。これは、「家で学習」に費やす時間の過ごし方と同じ傾向にあるといえる。反対に、「塾で学習」するポイントが中2になれば、増えていく傾向にあるといえる。

1-(10) 身の回りのことは自分でしますか 【設問7】

イ ふとん（ベッド）のあげおろし



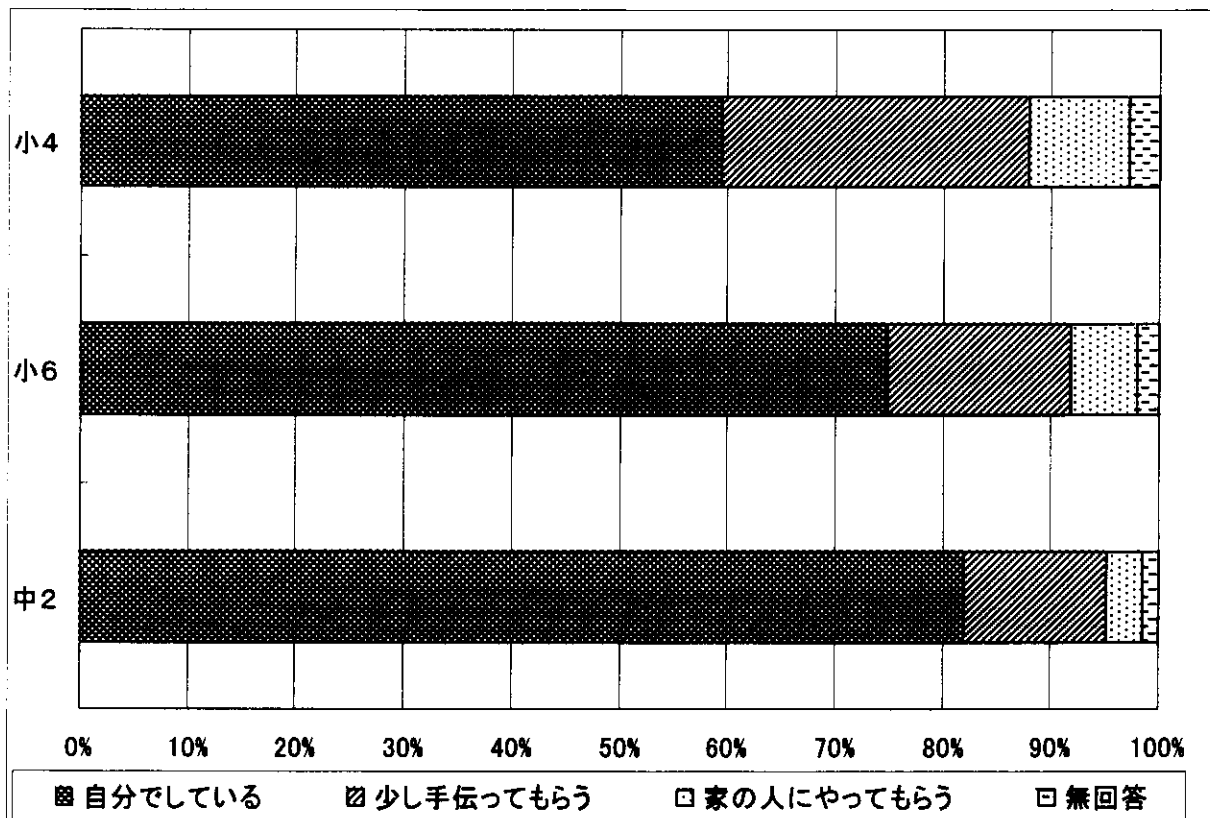
【考察】

「自分でしている」は、小4 (26.1%) 小6 (37.0%) 中2 (50.9%) と学年があがるにつれ、自分でするという割合は上がる。

「少し手伝ってもらう」は、全体では25.3%あるが、これも学年があがるにつれ、少しずつ減少し、結果として自分でする傾向を押し上げている。

「家の人にやってもらう」は、全体で35.1%あり、小6では約3分の1、中2では約4分の1を占めている。基本的な生活習慣の確立という観点からみれば、気になるところである。

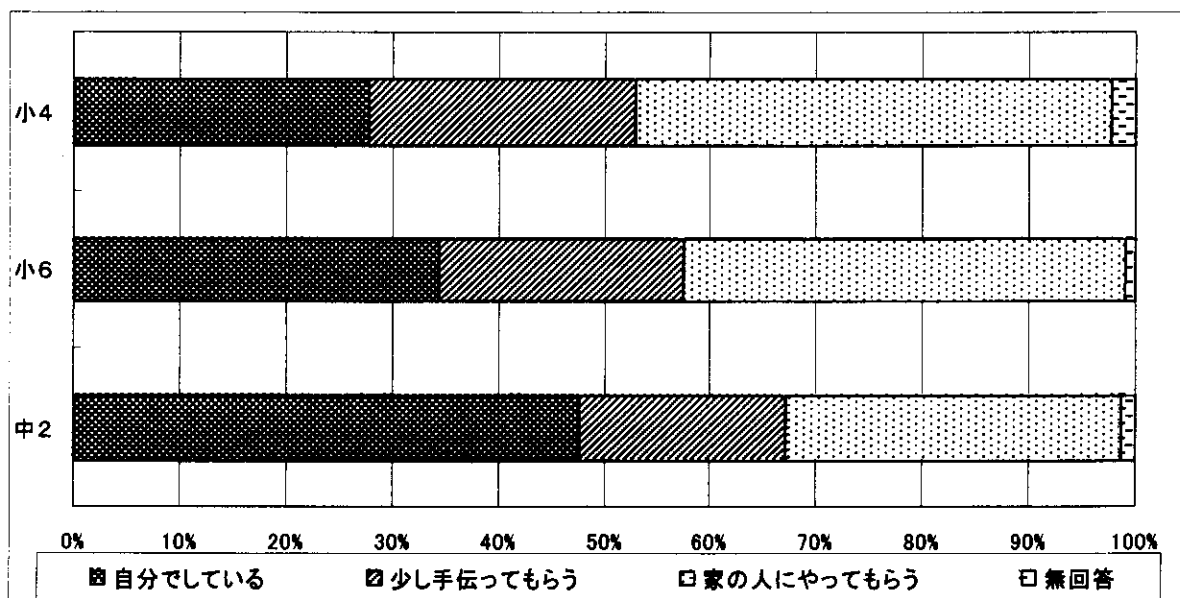
ロ 机の上や中の整理・整とん



【 考 察 】

全体的に小4の約6割(59.3%)、小6の約7.5割(74.9%)、中2の約8割(82.0%)が自分でしており、「家の人をやってもらおう」は少ない。ここでも学年があがるにつれ、自分でしている児童・生徒が増えている。

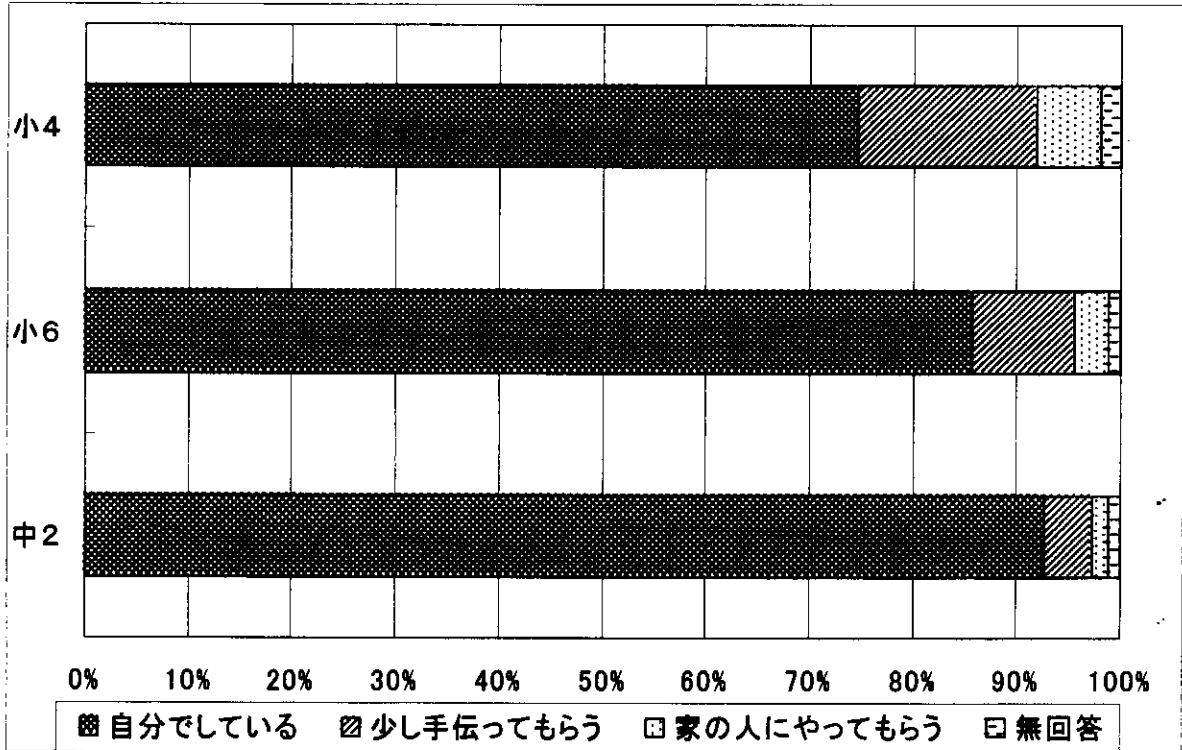
ハ 洗濯物を自分の引き出しに入れる



【 考 察 】

「机の上や中の整理・整とん」に比べると、「家の人にやってもらう」割合が高い。「自分でしている」は小4 (27.8%)、小6 (34.4%)、中2 (47.6%) で、「ふとんの上げ下ろし」の結果とよく似ている。

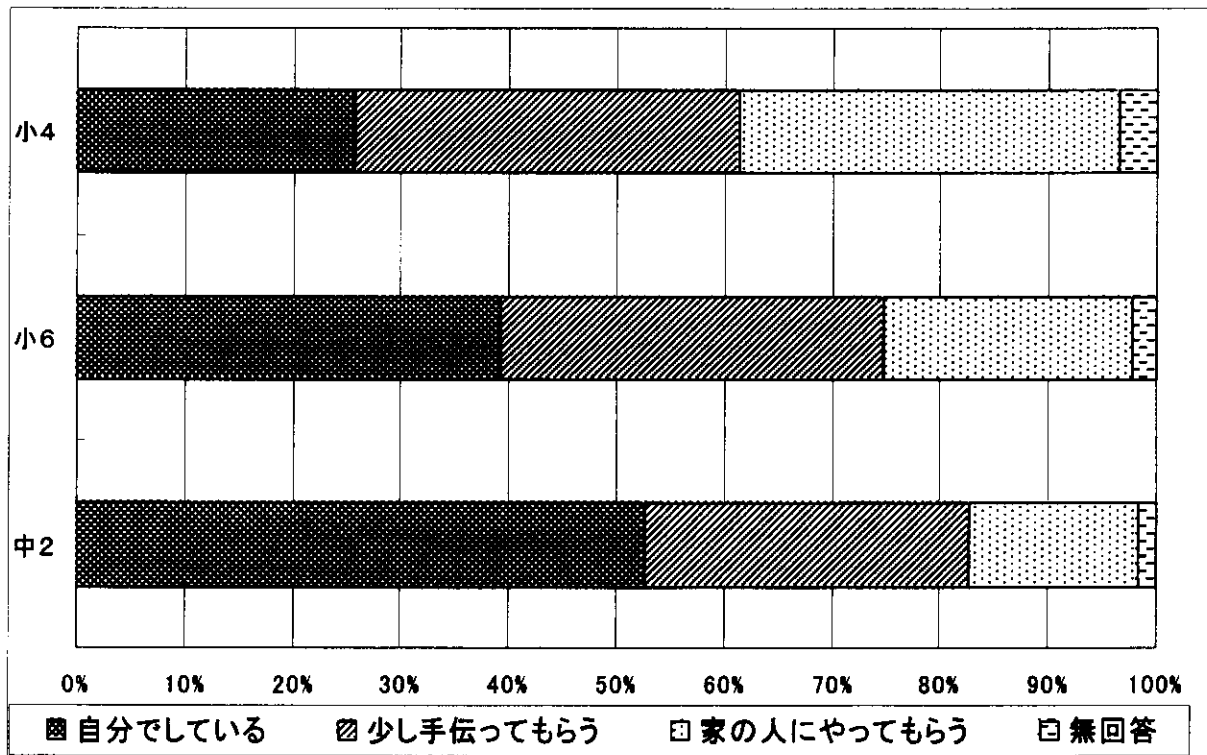
二. 明日の用意 (学校の用意や服装)



【 考 察 】

「明日の用意」はほとんどの児童・生徒が自分でしており、その割合は「机の上や中の整理・整とん」を上回っている。小4 の子どもについていえば、「少し手伝ってもらう」が 17.2%、「家の人にやってもらう」は、6.2%と少しあるが、小6、中2 の児童・生徒についていえば、自分の用意は自分でできて、親の手を借りている子は少ない。

ホ. 自分の部屋のそうじをする



【 考 察 】

自分の部屋のそうじについては、中2では、約5割(52.6%)が自分でしている。

小6でも、約4割(39.3%)が自分でしているが、少し手伝ってもらっている子どもも、同じくらいの割合(35.5%)でいるといえる。

小4については、少し手伝ってもらうが、35.7%と多いが、家の人にやってもらうが、35.0%と同じくらい多い。自分でしている子は、25.7%と小4の中では、一番少ないポイントである。

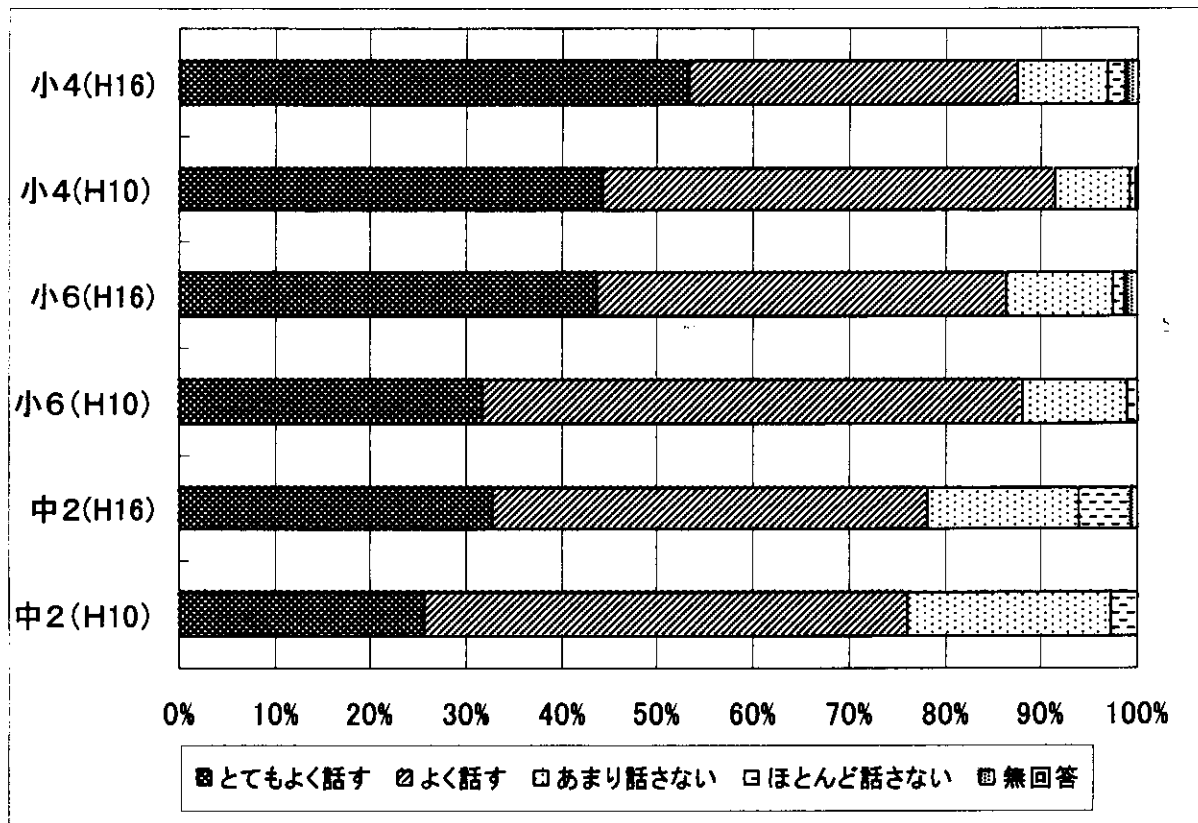
学年があがるにつれ、自分でするといった割合は高くなる。

【 総 合 考 察 】

「机の上や中の整理・整とん」や「明日の用意」といった学校生活と関連のある項目については、どの学年も「自分でしている」という割合が高いといえる。

「ふとんのあげおろし(ベッドの整理)」および「洗濯ものを自分の引き出しにしまう」や「自分の部屋のそうじをする」といった身辺自立に関わる項目については、学校生活に関連のある項目よりも家の人に手伝ってもらう度合いが高い。しかし、いずれの場合も年齢の発達段階に応じて「自分でしている」割合が比例的に上がっていくといえる。

1-(11) 親子でよく話をしますか 【設問8】

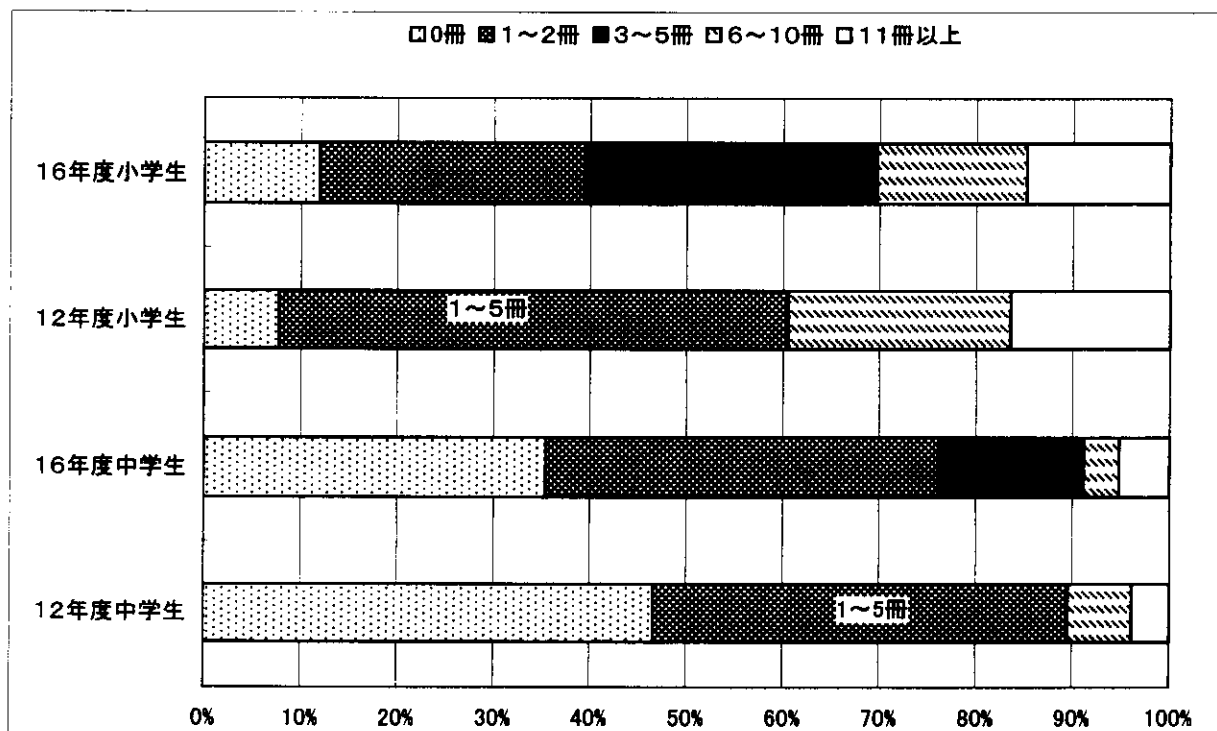


【考察】

全体として8割前後の児童・生徒が「とてもよく話す」「よく話す」と答えている。学年が上がるほど「話す」割合が減り、中2では2割くらいの生徒が「話さない」と答えているが、それも中学生くらいの発達段階に特有のことと考えれば、親子のコミュニケーションは全体として良好であるとみてよいだろう。

平成10年度の結果と比較すると、「話す」とする割合に大きな変化はないが、今回の場合はそのなかでも「とてもよく話す」と積極的な回答を行った児童・生徒の割合が多くなっている。

1-(12) 1ヶ月に何冊くらい本を読みますか。〔設問9〕

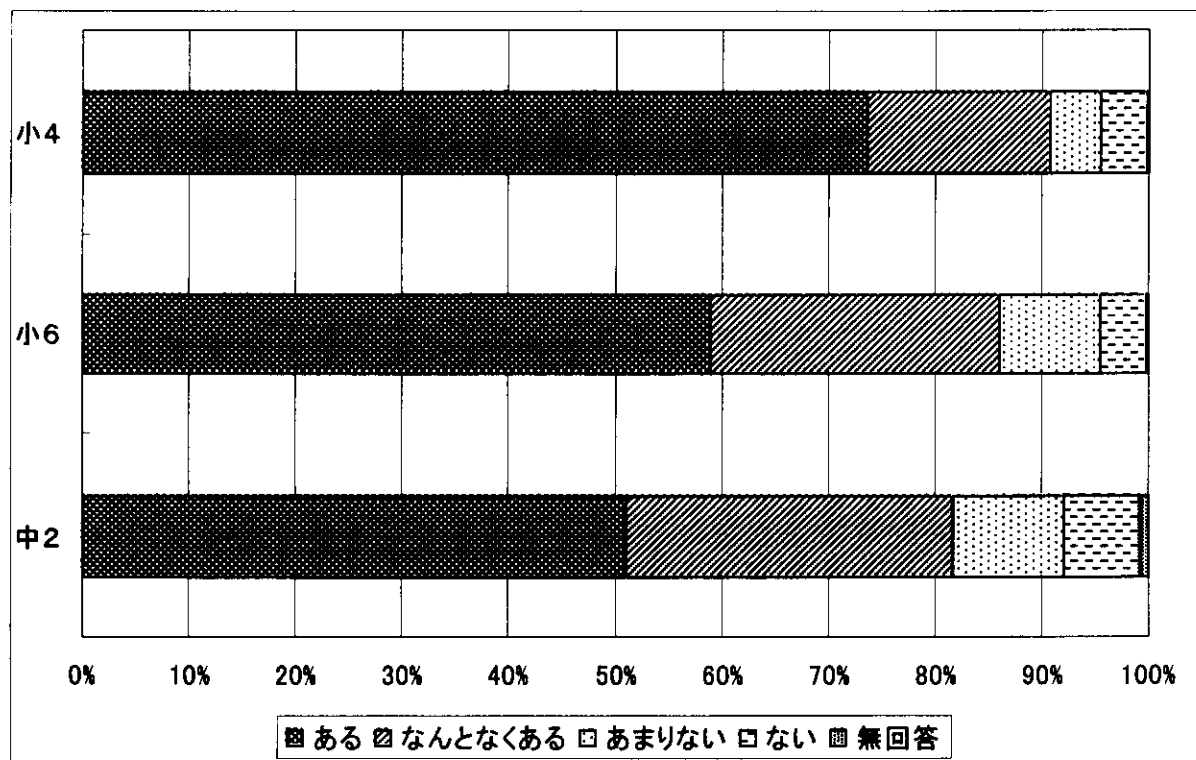


【考察】

平成12年度の調査では1ヶ月に1冊も読書していない児童・生徒は小学生で7.6%、中学生で45.8%であった。今回の調査では中学生で読書していない生徒が35.3%で10.3%減っているが逆に小学生では11.9%で4.3%増えている。1~5冊では小学生で5.7%、中学生で13.5%と共に増えている。6~10冊、11冊以上では小学生でポイントを下げている。中学生では6~10冊では若干減らしているが、11冊以上では少し増えている。

中学生では全体的に読書量が増えてきているようである。特に0冊が減り、1~5冊が大きく増えていることから、朝の読書タイムなどの取り組みの成果がでているのであろうか。

1-(13) 大人になったらつきたい仕事がありますか。〔設問20〕



【考察】

「ある」「なんとなくある」の回答を合わせると、小4では90.8%、小6では86.0%、中2では81.8%と、学年が上がるとともにポイントが下がっているが全体的には高いポイントである。学年があがると、社会の現実に対する理解が深まり、つきたい仕事につける難しさを認識するようになるのであろうか。しかし、8割から9割の子どもが将来に希望や夢を持って、今を生きていることは明るいことといえよう。

2. 子どもの学習について